

# フラワーバレンタイン

14日はバレンタインデー。女性から男性にチョコレート贈る日として定着していますが、男性から女性に花を贈る「フラワーバレンタイン」を知っていますか？

冬季の需要低下に歯止めをかけようと、花の生産者や販売業者らが、定着をめざして全国各地で運動している。専用のウェブサイトもあり、予算や花の選び方などが詳しく紹介されている。

県内でも今年から金沢花市場地方卸売市場が本格的に乗りだし、加盟店約100社と連携してPRに奔走する。

市場社長の村松憲一さん(60)は「全国規模の活動に金沢が乗り遅れてはならない」。市場では、ピンク色ののぼりを立てて、そろいのウインドブレーカーを着て生花店に売り込んでいく。

県や国も全面的に協力する。県は長年かけて開発したフリージアの新品種「エアリーフローラ」の宣伝も兼ねて、「フラワーバレンタイン大作戦！」と銘打ったイベントを開催する。10、11日には金沢市広坂2丁目のしいのき迎賓館でエアリーフローラの

## お花でハートつかもう

オブジェづくり体験をする。北陸農政局は14日、金沢広坂合同庁舎に勤務する職員100人がエアリーフローラを含む花束を手に帰宅し、道行く人にアピールする「フラワーオーク」を企画している。

園芸特産課の平岡道広課長は「消費拡大の一助となれば。男性と花束の組み合わせが風景の一部となじんでほしい」と話す。

だが、まだまだフラワーバレンタインという言葉は浸透していないようだ。道行く男性に聞いてみると、「バレンタインデーはチョコレートをもらう日。フラワーバレンタインは聞いたことがない」(21歳フリーター)、「花束は墓参り用。贈り物用を買う

### 業者らPRに懸命

のは恥ずかしい」(62歳会社員)との声。それでも「初めて知ったが、おもしろい。妻にあげてもいい」(38歳会社員)という人もいた。

県生花小売商協同組合の山崎英之理事長(45)は「生花店でも取り組みに温度差はあるがキャンペーンへの出資者は増えている。次は消費者にどう浸透させるかが課題」と話す。では、どうしたらいいか。山崎さんは「女性からも花束を贈ったらどうですか」と提案する。「義理チョコや友チョコとの差別化をはかるため、本命チョコにバラ一輪を添えてみては」

世の男性方、それから女性方、今年のバレンタインはどうしますか？ (木元幹子)



ピンク色ののぼりとともに、おそろいのウインドブレーカーを着てフラワーバレンタインをアピールする競り人たち＝金沢市神宮寺1丁目